

日交研シリーズ A-765

平成 30 年度自主研究プロジェクト

高齢化社会における家族構成の変化と交通手段の適切な関係研究プロジェクト

刊行：2020 年 3 月

## 高齢化社会における家族構成の変化と交通手段の適切な関係

### Family structure transitions and transportation mode choice in an aging society.

主 査：鹿島 茂（中央大学名誉教授）

Shigeru Kashima

#### 要 旨

昨年度、高齢化社会での交通対策を提案する報告書として長寿社会を支える交通ビジョンをまとめたが、その過程でいくつかの課題が指摘された。

本年度は、これらの課題のうち研究会で検討すべきと判断した以下の 3 課題について検討した。

課題 1. 高齢化に先立って進んだ高速化は、高齢化と関係ないのか

課題 2. 高齢化は自動車保有にどのような影響を与えているのか

課題 3. 近年着目されつつある近居は高齢社会における交通対策となりえるのか

課題 1、2 は、高齢化社会を考える際の前提に関する課題であり、課題 3 は、検討すべき交通対策の範囲に関する課題である。

本年度はこれら 3 課題について検討した結果を取りまとめた。

「第 1 章 移動の高速化と高齢化」では、高速化が地域の利便性の差を広げたのか、縮めたのか、この利便性の変化は高齢化に影響を与えていると考えられるのかを検討している。

「第 2 章 高齢化社会における自動車保有」では、高速化と共に進行したモータリゼーションによって出現した自動車が便利である社会の中で進んだ高齢化が、自動車保有の変化にどのような影響を与えたのかを検討している。

「第 3 章 高齢化社会での交通対策としての近居の可能性」では、現在の核家族という家族のモデルの下での交通対策と近居という複数家族の新たな住み方のもとでの交通対策を比較するために、近居という住み方がどのような切っ掛けで選択されるのかを検討している。

キーワード：高齢化社会、高速交通機関、自動車保有率、近居

Keywords : Aging society, High-speed transportation, Car ownership rates, Close residential relationship